

のだてしよ
お野立所のデザイン決定

1 お野立所とは

全国植樹祭の式典行事において、天皇皇后両陛下が御着座される建築物を「お野立所」と呼ぶ。会場の中でもシンボリックな位置付けとなるため、開催県では地域の特色を生かした木製建築物を設置している。

2 本県の「お野立所」デザイン仕様

- ①東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂の場である祈念公園にふさわしい建築物であること。
- ②周辺の風景と調和した建築物であること。
- ③環境因子（風、日射、降雨等）に対応した構造であること。
- ④県産木材の普及啓発に資する設計であること。
- ⑤施工性等に配慮していること。

3 デザインの決定

高田松原津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設を設計した㈱内藤廣建築設計事務所が、複数のデザイン案を作成し、その中からデザイン仕様を基に、会長が決定した。



お野立所のイメージ

○ 設計コンセプト

観客席に向け大きく開いた三日月形の屋根

- ・緩やかなすり鉢状の地形になじみ、海風など周辺環境に呼応した屋根形状とした。
- ・お野立所を包み込み、強風を受け流す。

○ デザインイメージ

- ・東日本大震災津波による犠牲者への追悼と鎮魂の場である高田松原津波復興祈念公園にふさわしく、周辺の風景と調和したデザイン。
- ・三日月形の屋根は、伸びやかで明るい未来と、木材利用の新たな可能性を表現。
- ・基壇は、県産木材を使用した柔らかな質感で仕上げ、「あたたかな県民性」を表現。
- ・海から陸に伸びる屋根のラインは、本県の宝である森・川・海の繋がりと、力強く未来へ向かう岩手県民を表現。

4 今後の予定

令和3年度中に、本デザインに基づく建築設計を行う。

令和4年度に建設工事を開始し、令和5年3月頃までに完成する見込みである。

【参考①：第25回全国植樹祭（岩手大会）のお野立所 [S49、於 岩手県県民の森（旧松尾村）】



- ・従来は「^{ぼくしや}幕舎」であったお野立所を、第25回全国植樹祭岩手大会で初めて「あずまや」に変えて設置
- ・かやぶきを用いた屋根が特徴
- ・大会後も県民の森の「あずまや」として利用

【参考②：先催県のお野立所】

福島県 (H31)	愛知県 (R元)
<p>曲線は、阿武隈山地を、異なるアーチの組み合わせは虹を表現</p>	<p>柱材で組んだ曲線的なフォルムは、「木づかい」を大きく羽ばたかせ、明日へつなぐ愛知県の姿勢を表現</p>
島根県 (R3)	滋賀県 (R4)
<p>白い壁は、雲がたなびく様子をイメージし、「神話の国島根」を表現</p>	<p>円形の床は、琵琶湖をイメージし、柱部分は樹木を、屋根は樹冠の広がりを表現</p>